

文京ふるさと歴史館

BUNKYO MUSEUM NEWS

だより



TOKYO — CHERRY BLOSSOMS AT YEDOGAWA.

櫻の川戸江

▲絵はがき「江戸川の桜」(館蔵)

第21号／平成26年6月20日発行

ぶんきょうの樹木 — 館蔵資料に見る —	2
『新撰東京名所図会』から見た小石川区 今、常設展示室がおもしろい!	4 6
平成25年度のあゆみ	7
資料をご寄贈くださった方々	8
平成26年度の催し	8

ぶんきょうの樹木

—館蔵資料に見る—

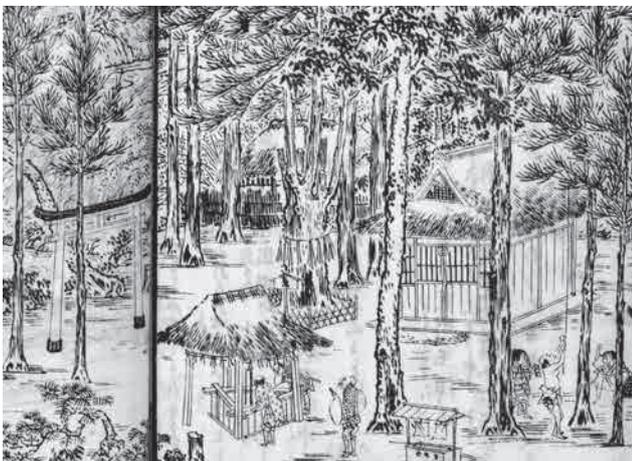
学校・道路・寺社・公園・庭園…都市部にありながらも“緑”に恵まれる文京区には、人びととの暮らしの中で共に生きる多くの樹木があります。

そうした樹木のなかには、人の一生よりはるかに長生きする歴史的な“老樹”もあります。例えば、平成25年3月、区指定天然記念物の第1号として指定された善光寺坂（小石川2・3丁目の間）坂上のムクは、樹齢数百年とも伝えられ、「ムクの老樹」・「善光寺坂のムク」として、地域に親しまれています。また、文京ふるさと歴史館から程近く、本郷2丁目にそびえる大クスノキも、やはり樹齢数百年と称される“老樹”のひとつです。今回は、こうした区ゆかりの樹木に関する博物館資料のいくつかをご紹介します。

『江戸名所図会』—清土星の清水 七本杉—

画像1は、『江戸名所図会』（巻4 1836年）に描かれる「清土星の清水」（部分）で、現在の清土鬼子母神（現、目白台2丁目）境内あたりが描かれています。本文には、「雑司ヶ谷鬼子母神出現の地にして…社前にあるところの井泉を星の清水と号く。往古鬼子母神出現の頃、この井に星の影を顕現せしことありしゆ糸」と記されています。『小石川区勢総覧』（1934年）では、ここを「霊地」としたうえで、「俗に御穴の鬼子母神の称がある」と紹介しています。

地・井泉・鬼子母神が分かちがたく結びつくこの場所に、描かれる樹木が「七本杉」（画像中央）です。文には、「七本杉といへるハ一根にして七つにわかれたり」とあります。数本の上部は欠損しているようにも見えますが、枝分れをした樹木が、注連縄をつけ、囲いを施されたその姿からは、信仰の程をうかがうことができます。



【画像1】

音羽目白雑司谷辺絵図—鶴松・亀松—

画像2は、江戸時代に作られた「音羽目白雑司谷辺絵図」（1851年）という切絵図（部分）です。ご覧いただいているエリアは、現在の目白台1丁目あたりに該当しますが、そこに描かれる「細川越中守」屋敷前には、樹木とともに、「鶴」「亀」という呼称の記載があります。切絵図などの寺社・大名屋敷地に、樹木の絵柄が描かれることは、ままあります。ただし、こうした樹木名や通称などが記載されることは多くありません。明治時代の地誌『新撰東京名所図会』（1907年）は、この松について「門に向ひ左なるを鶴といひ。右なるを亀と呼びしが。惜哉鶴の方は昨年遂に枯れたる」と記しています。さらに「町名も全く此松より起れり」としており、このあたりの旧町名である高田老松町（現、目白台の一部）の命名由来の松であることを示しています。名物・名所として名高かったことを示す資料といえるでしょう。

ちなみに亀松については、「大正震災後、樹齢尽きて大都市の名樹を失った」（『小石川区勢総覧』）とあります。

江戸川の桜

この『文京ふるさと歴史館だより』の表紙画像は、「江戸川の桜」と題した絵はがきです。『新撰東京名所図会』は、江戸川（区内における神田川の一部の旧称）の桜の沿革について、「沿岸に始めて桜を植附けたるは、去る明治十七年の春三月なりとす」とし、周辺の住民が「江戸川の風致を添えむ」として、「互ひに競ふて其持地先の川縁に植附くることとなり、茲に後來花の名区となるべき端緒を開くに至れり」としています。さらに、ある大地主が「自分の持地のみは一株だも植附けざる」という事態により、「町内の者大勢此家へ押掛け、「公共心の乏しきを責めしに」という結果、この地主は「已むなく一同の議に従ふて」、桜幾株を取り寄せたというエピソードを紹介しています。

新小金井とも称された江戸川の桜ですが、『小石川区史』（1935年）は、「護岸工事の為め…大正の末年頃には旧時の面影を全く失ひ…」という状況を伝えています。



【画像2】

安政年代駒込富士神社周辺之図・図説

富士神社近く(現、本駒込5丁目)に、かつて海老床^{えびとこ}という髪結床がありました。その海老床の10代目主人嶋村八十八が、先代文治郎の“記憶”をもとに描いた、父子合作が「安政年代駒込富士神社周辺之図・図説」です。立体的に描かれた図(卷子二巻)と、図説(図と文字による解説・卷子一卷)で伝えられるこの資料には、「安政年代」とされる海老床や富士神社を中心とした日光御成道(岩槻街道)界隈、現在の南北線本駒込駅あたりから霜降橋(豊島・北区の区界)までのおよそ2km程度の範囲が描かれています。

図説に記される一文には、明治42年、八十八が友人から借りた「東京名所図会の内本郷区之部」を父・文治郎に見せたところ、「ほゞ此様なりしが違ふ所も多しとて詳細に語り」とあり、「此話を絵図に描きたらば昔を偲びて面白からん」などと、作成のきっかけが記されています。また「暇あるごとに父に聞きて下書きをなし」、「大正五年の三月漸く描き上げし」とあります。一方、この文末には「昭和十年七月」とあり、また別巻(図)の文に、下書きが、昭和20年4月13日の「戦災にて消失」、「惜く思ひておぼえ居るだけを記す」とあり、全体的な完成は、昭和20年以降という推測がなされます。

資料には、武家屋敷・寺社・名主屋敷や、植木屋・花屋・菓子屋・金物屋・団子屋・提灯屋ほかの町屋、坂・橋・木戸・横丁など、詳細な町並が描かれています。この資料の、とりわけて個性的なところは、「ウエ木仕事」の「ジャガ民」、「まどひ持手」の「くろ定」、ゴ家人(御家人力)「ゴケタツ」など、そこに暮らす人びとの職や「字名」が記載されているところです。

そしてこの資料からは、界隈にあった樹木を知ることができます。画像3は、図説の一部(富士神社境内およびその周辺部分)ですが、エノキ・カエデ・カシ・カヤ・ケヤキ・シイ・スギ・トチ・ヒノキ・モミほかの樹種名の書き込みを見ることができます。とくにモミに関しては、「本郷ノ赤門前カラ見エルもみノ巨木」とあります。このほか、博打が開かれていた「椎ノ木山」、「狐狸ノ棲ム」杉林、「へん見ノ松と云フ名高い赤松」、「雷ノ落

チタいてふノ大木」など多くの具体的記述があり、その記憶の詳細さと再現力に驚かされます。いずれにせよ、かつてこのあたりに、どのような樹木が、どのようにあったのか、それを示すたいへん貴重な資料です。

『椎の若葉』

画像4は、『椎の若葉』(1924年発行)という文学作品です。作者(画像5)は、葛西善蔵(1887-1928)という人物で、私小説家として知られています。やさしげ・端正な風貌の善蔵ではありますが、その素行・酒癖・凶暴性は、文壇や周囲の人びとを、ただならず困らせていたようです。この作品は、作者がかつて本郷区弓町(現、本郷2丁目)にあった下宿・西城館に止宿した際の経験・出来事をもとに描いたもので、作中“おせい”として登場する女性との愛憎劇が、本郷、そしておせいの実家のある鎌倉をまたにかけ、くりひろげられます。当時の新聞にも、「葛西善蔵氏暴る」(『読売新聞』1924年6月13日)、「葛西善蔵君拘引さる」(『朝日新聞』同日)など、鎌倉における“おせい”や周囲の人びととの騒動に関する記事があり、現実の騒動が、作品へと昇華されていることを知ることができます。

この作品には、椎が登場します。西城館から見える椎で、その若葉は、生命力にあふれ、作者自らの生活とはあくまで対比的に、羨望的として描かれています。作者の身辺が悲惨であるほど、そして騒動が大きいほど、「椎の若葉」が光り輝くという葛西の傑作です。

平成26年度文京ふるさと歴史館特別展は、地域ゆかりの樹木をテーマに、開催を予定しています。ここに紹介した資料だけではなく、さらに多くの“樹木”に関する貴重な・楽しい資料を展示する予定です。また合わせて、区の樹木の現状なども紹介できればと、現在取材中です。地域の歴史博物館としては、少しめづらしいテーマの展示となるかもしれません。みなさまの来館をお待ちしています(会期：平成26年10月25日～12月7日)。(東條 幸太郎)



【画像3】



【画像4】



【画像5】

『新撰東京名所図会』 から見た小石川区

●『新撰東京名所図会』と小石川



【図1】

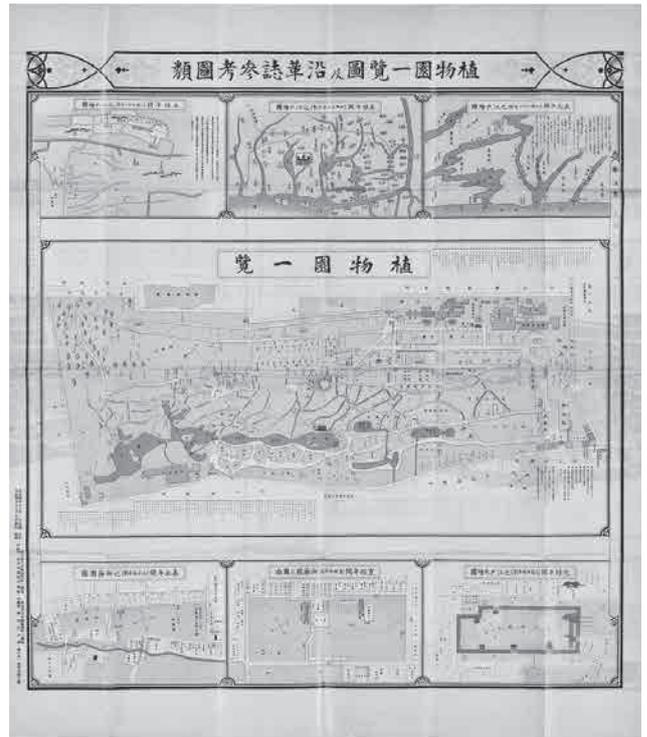
『新撰東京名所図会』【図1】(表紙)とは、東陽堂から発行された雑誌『風俗画報』の臨時増刊として刊行され、東京の名所などを町ごとに紹介した書籍です。『新撰東京名所図会』は、明治29年(1896)から44年まで発行され、挿絵や写真が多く使われています。編集は山下重民他、挿絵は山本松谷他です。山下

重民は安政4年(1857)に東京千駄ヶ谷(現、新宿区霞岳町)に生まれ、明治12年から43年まで大蔵省に勤務しました。明治27年には、それまで度々寄稿していた『風俗画報』の編集責任者となり、大蔵省の仕事の傍ら『風俗画報』を執筆、昭和17年(1942)に没しました。山本松谷は明治3年に高知県に生まれ、明治27年に東陽堂の絵画部員となり、『風俗画報』の表紙・口絵・挿絵を描きました。その後、文展や帝展に出品し、風俗画を多数残し、昭和40年に没しました。

『新撰東京名所図会』で文京区域は、「小石川区之部」と「本郷区之部」に分かれています。明治39、40年に発行され、当時の町ごとに町内にある名所や学校、会社、商店などについて書かれ、さらに町内に在住する著名人の名前も出ています。登場する場所のなかには、当館で関連する資料を所



【図2】



【図3】

蔵していることもあります。『新撰東京名所図会』を読みながら資料を見ると、資料の背景や当時の様子がより詳しくわかります。当館では文京区域に関連する資料を多数所蔵していますが、その中から小石川区に関わるものを紹介します。

小石川区は、明治11年に設けられ、昭和22年に本郷区と合併して文京区になりました。小石川区の範囲は、主に現在の文京区後楽、春日、小石川、白山、千石、水道、小日向、大塚、関口、目白台、音羽です。【図2】は「東京市小石川区全図」で、明治40年に発行されました。『新撰東京名所図会』が発行された年の小石川区の地図です。

●植物園

『新撰東京名所図会』には様々な名所が登場しますが、ここでは小石川植物園と関連する資料について紹介します。小石川植物園は江戸時代、御薬園でしたが、明治元年に東京府の管轄となります。その後、明治10年、東京大学の附属植物園となりました。『新撰東京名所図会』には次のように紹介され、明治の植物園の様子がわかります。

●〈帝国大学理科大学附属〉植物園

帝国大学理科大学附属植物園は、理科大学の所管にして、其面積四万八千八百余坪を有し、東京帝国大学を距ること西北凡二十町、小石川白山御殿町百六番地にあり。(中略)

○入園料 入口に於て観覧券を求むべし。

平日観覧券〈五歳未満の者は観覧券を要せず其以上十歳未満は半値〉青色 一枚 二銭

日曜観覧券 同上 紅色 一枚 三銭(中略)

○売店（中略）「草花種子類売場」の牌を揚げ、茶菓子類、煙草類、植物標本、植物園絵葉書（中略）の類を売れり
 （引用文中〈〉内は双行の割註）

植物園は、明治10年から一般公開され、21年からは入園料が徴収されるようになりました。『新撰東京名所図会』からは、平日と日曜の入園料の違いや、園内に売店があり、植物標本の他に菓子や煙草、絵はがきといったものまで販売していたことなどがわかります。ほかにも館蔵資料の中で植物園に関連するものでは、大正4年に発行された【図3】「植物園一覧及沿革参考図類」があります。この資料は園内の地図ですが、上下に「長祿年間之江戸絵図」「元禄年間之江戸大絵図」などの江戸図や「寛政年間御薬園之図面」「嘉永年間之御薬園図」などの絵図が載せられています。中央の「植物園一覧」は、植物の植わっている場所に番号を付け余白に番号と名前を記し、約240種の植物の名前が書かれています。

また明治10年から公開されていた植物園は、絵にもなっています。「東京名所図絵」は、人物を中心に名所を描いたシリーズで、【図4】「東京名所図絵 植物園」は、明治26年に松木平吉により印刷発行されたもので、宮川春汀が描きました。【図4】には、池の畔にたたずむ親子の様子が描かれており、表題から植物園は人々に名所と考えられていたことがわかります。



【図4】



【図5】

●吉田屋呉服店

『新撰東京名所図会』は名所以外にもそれぞれの町の様子も伝えています。町ごとに「景況」として、町内にある会社、商店や住んでいる著名人を紹介し、住所や電話番号が書かれています。そこで紹介されている商店のチラシを当館で所蔵しています。【図5】「白山吉田屋呉服店ビラ」は、白山にあった呉服店のチラシで、『新撰東京名所図会』の「小石川白山前町」に「吉田屋(六十二番地。呉服商。高橋政右衛門)」と書かれています。「雛人形トお道具陳列」とあることから、ひな祭りの時期に配られたものではないでしょうか。

『新撰東京名所図会』には、当時の町の様子が書かれ、挿絵や写真で紹介されています。今日とは全く変わってしまった場所や、そのまま残っているものなど様々です。「明治以後は旧観殆むと一変し、新景の記すべき者甚だ多し」とされ、新しい東京を伝えようという『新撰東京名所図会』は、明治の町の様子を知る資料として貴重なものです。今年度の収蔵品展では、『新撰東京名所図会』と関連する館蔵資料をはじめとして、当時の小石川区の様子がわかる資料も紹介します（会期：平成27年2月14日～3月22日）。

（齊藤 智美）

【参考資料】

山本松谷画・山本俊次朗著『明治東京名所図会』1989年 講談社

山下重民著・山下重一編『風俗画報・山下重民文集』1991年 青蛙房

大場秀章編『東京大学コレクションIV 日本植物研究の歴史—小石川植物園三〇〇年の歩み』

1996年 東京大学総合研究博物館

今、常設展示室が おもしろい!

文京ふるさと歴史館は、今年開館 23 周年を迎えました。これまで1・2階の常設展示室は、部分的な展示替えのみで、大きなリニューアルを行っていません。いつ来ても同じ!、1度見たからもう充分!、と思われる方へ、新しく加わったサービスや、何度来ても楽しめる、ちょっとした見どころについてお知らせしたいと思います。

新しいパズルが登場!

コンピュータ・システムに、新しいパズルが3種類加わりました。文京に関する資料を使ったパズルで、遊びながら歴史や文化に触れることができます。

(1) わがはい君をさがそう!

切絵図のなかに隠れた歴史館のキャラクター、黒猫の「わがはい君」を、虫めがねツールを使って探し出すゲームです。時間がかかってしまうと、あちこちで火事が!? 時間内に探し出すことができますでしょうか?

(2) 名所図会を直そう!

バラバラになった『江戸名所図会』の挿絵を元に戻すゲームです。上下左右が逆になっていることもあるので、じっくり観察が必要です。完成すると、資料の解説とランキングが表示されます。

(3) 錦絵パズル

分割された錦絵のパーツを動かして、1枚の絵を完成させます。初級は9分割、中級・上級は16分割で難易度が高くなっています。

ほかにも歴史館のコンピュータ・システムには、歴史や文化財、館蔵資料に関する情報がたくさん詰まっています。昭和52年から現在まで、区内約50か所を写真撮影したデータを見ることができるコンテンツ「街並みの移り変わり」も毎年更新して、新規撮影した画像を加えています。ぜひ、1・2階に設置してあるコンピュータを操作してみてください。



常設展示ボランティアガイド始動!

毎週土曜の午後、来館者向けに常設展示の解説を行っています。研修を受け、自己学習を重ねたメンバーが交代で担当しています。解説は、お客様のご希望、滞在時間などに合わせて行います。また上記の日時以外にも、別途予約も可能です。一人でじっくり見るのもよいのですが、個性豊かなガイドとの見学には、きっと新しい発見が待っていることでしょう。ぜひ解説を聞きながら、常設展示を改めて楽しんでみませんか。

日時：毎週土曜日 午後1時～午後5時

申込：不要 当日直接受付へ

費用：無料（入館料は別途）

※上記以外の日時をご希望の場合は、2週間前までにご連絡の上、申請書をご提出ください。



地域学習サポートコーナー

文京の歴史や文化に関する問合せや、地域学習へのアドバイスを行うレファレンスサービスを平成24年度より行っています。第2・4木曜日の午後1時30分から4時30分まで、学芸員が1階カウンターでお待ちしていますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

長屋の畳スペース(2階)

長屋を再現した原寸大模型ですが、靴を脱いで休憩できるスペースとして開放しています。畳に座って長屋の雰囲気を感じながら、双六、お手玉など、昔のおもちゃで遊ぶこともできます。放課後、小学生が宿題をしたり、談笑している場面もよく見られます。

そのほか、開館以来根強い人気を誇る土器パズルは意外に難しく、大人でも挑戦の価値があります。また駒込土物店(やっちゃんば)の模型は、街角に展開するさまざまなドラマがあり、細部まで見れば見るほど発見あります。ミニ企画コーナーでは、小さな企画展を年4回程度展示替えをして開催しています。

ぜひ、ふるさと歴史館の常設展示で、新たな楽しみを見つけてみてください。
(川口 明代)

平成25年度のあゆみ

小・中学生のための歴史教室

「わがはい君観測隊 いろんな数を探してみよう！」

◆7月20日(土)～9月1日(日)

参加者数……172人



歴史教室

歴史講座

「寛永寺と徳川慶喜 ー寛永寺側から見たケイキさんー」

／浦井正明氏(寛永寺長ちやうろう脇)

◆9月29日(日) 会場:文京区男女平等センター

参加者数……108人



歴史講座

特別展

「受け継がれた住まい ー今に生きる文京の近代建築ー」

◆10月19日(土)～12月1日(日) (延べ38日間)

入館者数……3,660人

◆記念講演会

11月23日(土・祝) 会場:文京区男女平等センター 参加者数……104人

「文京区の近代住宅」

／内田青蔵氏(神奈川大学教授・文京区文化財保護審議会委員)

◆展示解説 11月2日(土)、11月12日(火)、11月21日(木)

◆建物見学会 10月25日(金)、10月30日(水)、

10月31日(木)、11月14日(木)

参加者数……167人



特別展

収蔵品展

「武士の家系図 ー田村家資料の世界ー」

◆2月8日(土)～3月16日(日) (延べ32日間)

入館者数……2,453人

◆展示解説 2月11日(火・祝)、2月26日(水)、3月6日(木)



収蔵品展

ミニ企画

◆4月16日(火)～7月15日(月・祝)

「弓町に住んだサムライ ー幕臣がみた最後の将軍ー」

◆7月18日(木)～10月14日(月) 「歴史館で数字を探そう！」

◆10月16日(水)～12月23日(月・祝) 「復刊『文學界』と本郷・文圃堂書店」

◆1月5日(日)～3月23日(日) 「富士の見える風景」



ミニ企画

史跡めぐり

◆第1回 6月11日(火) 新たに指定された区指定文化財を巡る

参加者数……40人

◆第2回 11月22日(金) 徳川慶喜公ゆかりの寛永寺と墓所参拝

参加者数……55人

◆第3回 3月13日(木) 区境を歩くー目白台から西早稲田へー

参加者数……46人



第1回史跡めぐり

平成26年度の催し

※それぞれの事業の開催日時や募集方法等は、「区報ぶんきょう」およびホームページにて、お知らせします。

小・中学生のための歴史教室

この字、なんの字？ わがはい君鑑定団

7月17日(木)～8月31日(日)

歴史館に展示された昔の文字を、探して読んでみる歴史教室を開催します。

特別展

ぶんきょうの樹木 —いま・むかし—

10月25日(土)～12月7日(日) ※11月3日(文化の日)は無料公開日

地域ゆかりの樹木について、館蔵資料を中心に展示します。

史跡めぐり

歴史館友の会まち案内ボランティアが、区内の史跡等をご案内します。

年3回(6月、11月、3月)実施予定。要申込(往復はがきにて)。

参加費(保険) 40円。

収蔵品展

『新撰東京名所図会』の小石川を読む(仮)

2月14日(土)～3月22日(日)

『新撰東京名所図会』を中心に、館蔵資料をご紹介します。

文化人顕彰事業 歴史講座

文京ゆかりの文化人・佐藤春夫についての講演会を開催します。実施日未定、参加費200円を予定。

文化人顕彰事業 朗読コンテスト

文京ゆかりの作家の作品を題材にして、朗読コンテストを開催します。

本選 10月5日(日)、会場 跡見学園女子大学、参加費(審査料)無料。

※募集方法等は、ホームページなどでお知らせします。

文化人顕彰事業 史跡めぐり

実施日未定。要申込(往復はがきにて)。

参加費(保険) 40円を予定。

レファレンス

毎月第2・4木曜日13時30分から16時30分まで、館内1階レファレンスコーナーにて、ご質問にお答えします。

ボランティアガイド

ふるさと歴史館ボランティアガイドが、毎週土曜日、13時から17時まで常設展示の解説を行います(申込不要・無料)。

上記日時以外のご希望も受け付けています。2週間前までに、文京ふるさと歴史館へ電話連絡し、申請書を提出してください。

利用のご案内

◆開館時間：午前10時から午後5時まで

◆休館日：月曜日・第4火曜日(休日にあたるときは翌日)

くんじょう期間、年末年始

◆入館料：一般個人100円、団体(20人以上)70円

中学生以下・65歳以上無料

*特別展は別に定めます

◆交通：東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線「本郷三丁目」から徒歩5分

都営三田線・大江戸線「春日」から徒歩5分

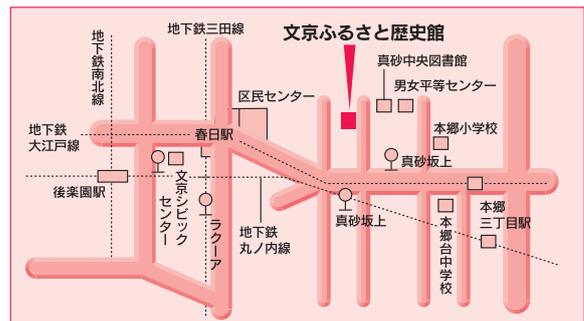
都営バス 都02 上69「真砂坂上」から徒歩1分

文京区コミュニティバスB-ぐる「文京シビックセンター」

または「ラクーア」から徒歩10分

◆ホームページ：<http://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/>

〒113-0033 東京都文京区本郷四丁目9番29号 電話(03)3818-7221



文京ふるさと歴史館